

平成30年度 能美市立寺井中学校 学校評価計画

重点目標	具体的取り組み	主 担 当	前年度の状況	目標が達成された状態(Bの状態)	評価の方法	評価	評価の判断の視視				判定基準	備考(評価時期等)	
							a	b	c	d			
1 組織的な学校運営	1-①	職員全体が参画意識をもち、共通理解・共通実践に取り組む。	運営委員会	アンケートの結果は、a+bが100%であった。中間総括より先生方の意識は高まり、報道相の徹底、共通理解・共通実践に取り組んでいることが伺える。今後、他学年との情報共有がさらに深まるように心がけている。<A>	前例踏襲ではなく見直しの視点をもつつ、各分掌からの提案がシンプルかつ具体的に継続的に実践に生かされている。	職員アンケート『目的・目標を意識し、前例踏襲にならないよう見直しを進めている。』 職員アンケート『各分掌からの提案がシンプルかつ具体的に、継続的に共通実践できている。』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない					a+bの職員の割合が全体の ・90%以上の場合 ・85%以上90%未満の場合 ・80%以上85%未満の場合 ・80%未満の場合	A B C D	7月・12月
	1-②	多忙化改善の取組を推進し、生徒と向き合う時間の質を高める。	運営委員会	アンケートの結果は、a+bが91.3%で中間総括よりも会議の持ち方に工夫がされてきている。会議の効率化は進んできているが、まだ生徒と向き合う時間の確保の難しさを感じる。今後も会議の精選等、全体の見直しを行っていく。<A>	時間管理を工夫し、授業の準備や部活動の指導がある程度余裕をもって進められている。	職員アンケート『時間管理を工夫することで、授業の準備や部活動の指導にある程度余裕がある。』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない					a+bの割合が全体の ・85%以上の場合 ・75%以上85%未満の場合 ・65%以上75%未満の場合 ・65%未満の場合	A B C D	7月・12月
2 学力向上	2-①	学習や諸活動の最初にゴールや見通しを示し、最後に振り返る活動を入れる。	研究部	何れの教科においても設問に対する回答が7月時よりも同等もしくは向上の結果となり、全体としてa+bで89.3%であった。この視点は、本校における授業改善の3つのポイントに掲げている内容であり、全体的に浸透している傾向にあると考える。今後も引き続き意識を高めていきたい。<A>	様々な場面で生徒にゴールや見通しをもたせるとともに、最後はまとめや振り返りなど個に返す時間を設定している。	生徒による授業評価アンケート『授業の最初にめあてや見通しが示されている』『考える授業となっており、授業のまとめや振り返りの場が設定されている』『学校行事のねらいを意識して主体的に取り組んでいる』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない					a+bの割合(4つの項目の平均)が全体の ・85%以上の場合 ・75%以上85%未満の場合 ・65%以上75%未満の場合 ・65%未満の場合	A B C D	7月・12月
	2-②	指導と評価(テスト)の計画を作成・工夫し、生徒主体の授業づくりに努める。	研究部	アンケート結果は、a+bが84.9%でA評価に0.1%届かなかった。しかし、上記2-①と同様、何れの教科においても7月時と比較して同等もしくは向上の傾向が見られ、学び合い学習への取り組みが進行していると考えられる。この分野については、単元や教科の特性も踏まえ今後も積極的に場面を取り入れていきたい。<A>	教科部会で指導と評価の計画について確認し生徒に伝えるとともに、活用力の評価について工夫している。	職員アンケート『単元の指導と評価の計画を作成し、教科担当間で確認している』『単元の学習とテストの計画を生徒に伝えている』『定期テスト等で活用力を評価する工夫を行っている』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない					a+bの割合(3つの設問の平均)が全体の ・85%以上の場合 ・75%以上85%未満の場合 ・65%以上75%未満の場合 ・65%未満の場合	A B C D	7月・12月
	2-③	家庭や地域と連携を踏みながら、生徒の学習習慣が確立するよう取り組む。	研究部	評価項目とした「終礼前学習への取り組み」に関しては、a+bが94.5%と高い回答であったが、家庭学習への取り組み方については、8割弱の回答にとどまり、全体としては、a+bで82.6%という結果であった。今後も安定した家庭学習の定着をめざし、引き続き意識を高めていきたい。	学習習慣の確立に向けた指導が十分なされ、また、放課後や長期休業中の補充学習にも積極的に努めている。	学習意識調査『学校の授業以外に月～金曜日に1日どれくらい勉強しますか』 a: まったしない b: 30分未満 c: 30分以上1時間未満 d: 1時間以上2時間未満 e: 2時間以上3時間未満 f: 3時間以上					1時間以上の割合が ・70%以上の場合 ・60%以上70%未満の場合 ・50%以上60%未満の場合 ・50%未満の場合	A B C D	7月・12月
3 心の教育の推進	3-①	学習規律等の指導を通して、実社会で必要とされる態度やマナーを身に付けさせる。	研究部	アンケート結果は、a+bが86.4%であった。「教具の準備」「チャイム前着席」「号令・あいさつ」は、本校が掲げる「授業を高める7か条」に含まれるものであり、良好に意識が定着してきていると考える。ただし、「私語を慎む」は他と比較し若干低いため、引き続き授業規律の確立に向け取り組んでいきたい。<A>	チャイムと同時に授業の開始終了がなされ、気持ちの良い挨拶とともに規律ある雰囲気での授業が行われている。	学習意識調査『次の授業の教具をそろえ、不必要なものは机の上に置かないようにしている』『チャイムが鳴る前に席に着いている』『号令と授業のあいさつはしっかり行うようにしている』『授業では、私語を慎んでいる』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない					a+bの割合(4つの設問の平均)が全体の ・85%以上の場合 ・75%以上85%未満の場合 ・65%以上75%未満の場合 ・65%未満の場合	A B C D	7月・12月
	3-②	保護者と連携しながら、一人ひとりの状況や特性に応じたきめ細かな指導を行う。	生徒指導部 教育相談会 通級指導教室	生徒の実態に合わせ、通級教室は順調に運営されている。不登校生徒の数は昨年度より少し減少している。市の訪問支援やふれあい教室、発達支援センターの協力を得て、一人ひとりの状態は少しずつ良くなっている。また、昨年度に比べ、学年や学期初めにおける新しい登校しぶりの生徒は減少している。	生徒理解に努め、保護者の願いも受け止め、個に応じた支援を行っている。通級教室も適切に運営されている。	不登校や不登校傾向、別室登校生徒の改善状況で判断 いじめ問題への早期発見・早期対応で判断 通級教室の運営状況については、運営委員会での討議をもとに判断					通級教室の運営、不登校や不登校傾向、別室登校生徒の状況、いじめ問題への対応 ・大変適切である ・概ね適切である ・あまり適切ではない ・適切ではない	A B C D	7月・12月
	3-③	これまでの道徳教育の実践研究の蓄積とその成果を共有化していく。	道徳部	中間総括と同様に、アンケートの結果は、a+bが100%であった。研究主任・道徳推進教師を中心に、道徳教育の充実がよく図られている。今年度の研究発表が良い機会となり、道徳の教科化に向けて求められている授業づくりが進んできている。<A>	すべての職員が、道徳教育年間指導計画に沿って道徳の授業を実施している。	職員(学級担任)アンケート『道徳教育年間指導計画に沿って道徳の授業を実施している。』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない					a+bの職員の割合が全体の ・90%以上の場合 ・80%以上90%未満の場合 ・70%以上80%未満の場合 ・70%未満の場合	A B C D	7月・12月
	3-④	生徒の「話し合い活動」を生かした学級づくり・学校づくりに努める。	生徒会活動部 生徒指導部	QUから学級生活満足群は、1年61%、2年69%、3年62%であった。7月(1年56%、2年64%、3年57%)と比べると、全学年ともに上昇している。また、全国平均37%と比べると大幅に上回っている。<A> 学校行事に対して、満足(楽しかった、どちらかといえば楽しかった)とする回答が96%であった。学校行事には大多数の生徒が満足を感じることができた。学校全体として生徒主体の行事運営にも取り組むことができた。<A>	行事等において様々な課題が生徒同士の話合いで解決されている。また、学級では、規律が守られ生徒の主体性が発揮されており、学校への満足度が高い。	体育祭、文化祭の生徒アンケート『体育祭(文化祭)は楽しかったですか』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない Q-Uの結果の「学級満足群」の割合 ※それぞれについて評価を出す					a+bの割合(体育祭、文化祭の平均) 「学級満足群」の割合が ・95%以上 ・85%以上95%未満 ・75%以上85%未満 ・65%以上75%未満	A B C D	7月・12月
4 体づくりの推進と安全指導の徹底	4-①	目的意識をもたせ、心身の発達にふさわしい活力ある部活動運営に努める。	生徒指導部	生徒のアンケートでは、a+bが88.3%となり、昨年度より14.8%上昇し、多くの生徒が、部活動を通して、自己の成長や技能の向上、集団への貢献といったものを感じている。<A>	生徒が部活動に目的意識をもって参加し、充実感や自らの成長を感じている。	生徒アンケート『部活動が充実していて、自らの成長が感じられる。』 保護者アンケート『部活動では、先生と生徒が目標に向かって努力している。』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない					a+bの割合(生徒・保護者アンケートの平均)が全体の ・85%以上 ・75%以上85%未満の場合 ・65%以上75%未満の場合 ・65%未満の場合	A B C D	3年生は7月 1・2年生は12月 保護者は12月
	4-②	保護者や地域とも連携し、交通ルール・マナーの徹底を図る	生徒指導部	3つの質問に対してa+bでは86%になる。しかしaだけみると交通ルールで70%、ヘルメット75%、並列走行44%と特に安全面に関しての意識の希薄さが伺える。交通ルールと並列走行と分けて質問したが、これで安全走行に課題がある事が分かった。地域からの苦情も並列走行が多く、今後も集余や学級指導で交通安全の呼びかけを徹底し、週2回や月2回の交通安全指導だけでなく、登下校時の安全走行についても呼びかけを続けていく。<D>	先生方の指導が徹底され、昨年度よりも交通ルール・マナーの徹底が図られている。	生徒アンケート『あなたはこの1週間、自転車乗車中、交通ルール(一時停止・信号遵守)を守りましたか?』 『あなたはこの1週間、自転車乗車中、ヘルメットをかぶり、あごひもをしっかりとしましたか?』 a: 守れた b: ほぼ守れた c: あまり守れなかった d: 守れなかった e: 自転車に乗らなかった					aの割合の平均が全体の ・95%以上の場合 ・90%以上95%未満の場合 ・85%以上90%未満の場合 ・85%未満の場合	A B C D	7月・12月
	4-③	ゲームやインターネット等の関わりも含め、より良い生活習慣の定着を図る。	生徒指導部	アンケートの結果はa+bが79.9%であった。5人に1人が規則正しい生活を送っているとはいえない状況にあり、学力向上の1つの土台である望ましい生活習慣に課題が残る。	生徒が自分をコントロールする力を身に付け、基本的な生活習慣の定着が図られている。	生徒アンケート『起きる時間・寝る時間・勉強を始める時間を固定し、規則正しい生活ができています』 a: 守れた b: ほぼ守れた c: あまり守れなかった d: 守れなかった					a+bの割合が全体の ・85%以上の場合 ・75%以上85%未満の場合 ・65%以上75%未満の場合 ・65%未満の場合	A B C D	12月
5 家庭や地域との連携	5-①	地域社会と連携及び協働しながら、キャリア教育の充実を図る。	総合・特活部 運営委員会	新規項目	地域社会との連携を図りながら特色あるキャリア教育を推進し、生徒の夢や目標を育んでいる。	学力調査・生徒質問紙『将来の夢や目標を持っている。』『授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う。』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない					a+bの割合が全体の ・85%以上の場合 ・75%以上85%未満の場合 ・65%以上75%未満の場合 ・65%未満の場合	A B C D	8月
	5-②	各種たよりやHP等を通して保護者への情報提供に努める。	運営委員会 情報担当	アンケートの結果は、a+bが77.6%で昨年度(81.6%)よりも若干低かった。しかし、今年度はHPを改良し、学校や学年、行事の様子を頻りに公開してきた。今後は、各種たよりは精選し、更にHPを充実させていくことで、保護者への情報提供に努めていく。	学校公開やたより、HP等により、学校や学年学級の様子保護者にほぼ伝わっている。	保護者アンケート『たよりやHPを通して学校や学年学級の様子が伝わっている。』 a: 満足 b: やや満足 c: やや不満 d: 不満					a+bの割合が全体の ・80%以上の場合 ・70%以上80%未満の場合 ・60%以上70%未満の場合 ・60%未満の場合	A B C D	12月